

## 平成 29 年 9 月定例会建設環境委員会所管事項調査の概要

○調査目的 委員会審査の参考とするため、大田圏域の環境生活部、土木部の所管事項を調査する。

○調査日 平成 29 年 9 月 27 日 (水)

○調査先 (1) 県道川本波多線 (川本町多田～美郷町港工区、美郷町竹工区)  
(2) 国道 375 号 (美郷町美郷工区)  
(3) 三瓶山

○調査実施者 別添調査しおり参加者名簿のとおり

### ○調査概要

#### (1) 県道川本波多線「中山間地域の道路改良の状況について」

○川本町多田～美郷町港工区については車中調査を実施

○美郷町竹工区については、現地調査を実施

##### ①調査道の役割

- ・ 県の中山間地域を東西に結ぶ主要幹線道 (雲南市～川本町 全長約 42km)
- ・ 三瓶山を中心とした広域観光ルートを形成
- ・ 国道を補完する第 2 次緊急輸送道路
- ・ JR 三江線代替バスルート

##### ②調査道の整備状況

- ・ 県央県土整備事務所管内の調査道延長約 27.3km、うち未改良道延長約 3.5km
- ・ 改良率 87.1%(H29.4.1 現在)

##### ③調査道の現状、課題

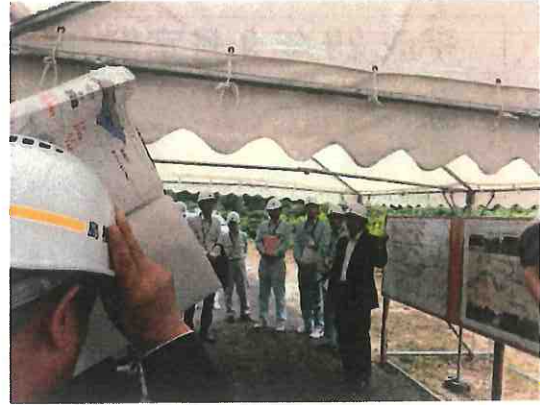
- ・ 江の川沿いの見通しが悪い狭隘な道であるため、車両の離合が困難な区間が約 150m ある。  
(現在は、対向車の通行を知らせる電光掲示板を設置し交互通行をしている)
- ・ 竹工区の大部分が冠水による事前通行規制区間に指定されている (約 2km)。
- ・ 江の川と三江線に挟まれるなどの地形的制約から工事が困難な箇所

##### ④調査道の改良状況

- ・ 離合困難な区域の対岸にトンネル (多田トンネル(仮称))と対岸に渡る橋梁 (新みなと橋(仮称)) を設置する等してバイパス化を行う
- ・ 多田～港工区全長 3,100m のうち多田トンネル(仮)約 1,000m、新みなと橋(仮)約 230m
- ・ 冠水区間の竹工区においては、整備道路の周辺部の切り土、盛り土を行い、道路建設を行い、災害に強い道路づくりに取り組んでいる。(延長約 1,300m)
- ・ 江の川と JR 三江線が隣接した限られた工区の整備であるため、周辺住民 11 戸が移転する必要があるため、工区内に集団移転地を造成している。



委員長挨拶



県央県土整備事務所長挨拶



工事の概要説明



参加委員

## (2) 国道375号(美郷町美郷工区)「道路斜面の落石対策について」

### ① 県内の落石の発生状況

- ・ 県道路パトロール日報によると、平成24年度から27年度までの落石処理数は42,758件
- ・ 処理件数の約3割にあたる1万5千件は県央県土整備事務所が対応している。
- ・ 処理した石の大きさ別では、全体の約97%が30cm以下の石が占めていた。
- ・ 平成28年9月に土木部が策定した「落石に係る道路防災計画」では、落石対策の進め方をスピード感のある手法で、計画的かつ効果的に進めていくため、次の三分区で対策を行うことにしている。

#### \* 緊急対策 \*

極めて不安定な状態となっている落石源に対し、今後3年程度を目途に緊急対策工事を行う

#### \* 段階施工(第1段階) \*

落石の発生頻度が高い発生源を優先して対策を実施する。今後10年間を目途に落石頻度の高い30cm未満の石を対象とした対策を行う

#### \* 緊急対策(第2段階) \*

第1段階の対策が完了し、県全体での安全性が底上げされた後に、第2段階として大きな落石源の対策を行う

## ②調査工区の概要

事業名：防災安全交付金(災害防除)事業 (美郷工区)

施行位置：美郷町粕淵～長藤地内 (9カ所 調査場所は美郷1工区)

全体延長：1,450m

工種内容：落石防護網工(従来型、高エネルギー型)、落石防護柵工、  
ロックシェッド工、ワイヤーロープ掛工、ワイヤーロープ伏工  
除去工、伐採・接着工 他

## ③その他落石対策に関する特記事項

平成28年5月に発生した、浜田作木線で発生した落石死亡事故について、現場の防災工事が本年8月に終了。引き続き付近の対策工事を行う。



調査先で説明を聞く各委員



対策状況(防護網と防護柵(上))



対策状況(ロックシェッド(写真奥))

## (3) 三瓶山

### ①しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業の概要

- ・大山隠岐国立公園をはじめとした島根の自然公園が持つ魅力を磨き上げ、国内外へ情報発信することで県内の自然公園への来訪者を増加させ地域活性化につなげることが目的
- ・やさしさ、包容力あふれる神話の山として来訪者を受け入れ自然学習や活動体験などを充実させて長期滞在したくなる地域を目指す。
- ・平成29年度事業では公園内のビューポイントで来訪者が快適に滞在できるように

公衆トイレ（洋式化等）、駐車場の再整備を行う。

## ②西の原（サブ拠点「山の駅さんべ」の指定管理者(株)necco の取組）

- ・地元食材をつかった食事の提供だけでなく、三瓶山に来たら気軽に立ち寄れる、体験イベント等を行い、多くの方に親しみを持ってもらえる施設として「山の駅さんべ」と名付けた。
- ・島根県満喫プロジェクト地域部会にも参加しており、外国人観光客の増加に向けた取組を進めており、民間が頑張らなければならないといけないのは理解しているが、三瓶山全体が良くなるように、官民一体で取り組む必要がある。
- ・大田市、大田市山村留学センター、ふるさと島根定住財団、地域の生産者、さんべ女子会、(株)necco で構成する「さんべ農のある暮らし協議会」を2016年に立ち上げ、農を核にした交流事業にも取り組んでいる。



(株)necco の方から取組説明

地元食材を使った昼食

## ③東の原（石見ワイナリーの進出、駐車場付近のトイレ再整備の状況）

### 石見ワイナリー

- ・市所有施設「ミラドールさんべ」（休憩施設）をワイン醸造施設に改修し、白ワインと赤ワインを醸造。（調査当日が初仕込み）
- ・醸造現場を見学できるように施設2階を改修中。
- ・原料は、東の原の栗園に醸造用ブドウ品種を改植して供給する体制をつくるが、原料が安定供給可能となるまでは、北海道及び青森県から原料ブドウを買い付ける。

### トイレ再整備

- ・快適性を増すために以下の改修を行う。  
洋式便座比率の増加、温水洗浄便座の設置、照明機器のLED化、自動点灯化、しまねの木・石見瓦タイルの採用、屋根の葺き替え、外壁の塗り替え



改修中の見学施設でのワイナリー説明



ワイナリーでの初搾汁

#### ④北の原（三瓶自然館サヒメル、小豆原埋没林公園）

##### サヒメル

- ・三瓶の自然や埋没林をはじめ、県内及び環日本海の自然に関する展示、プラネタリウムや天体観察施設、研究室などを備えた自然系博物館
- ・三瓶山全体を野外博物館と考える「三瓶フィールドミュージアム」の中核としての「ビジターセンター」の機能も兼ね備えた施設
- ・平成3年10月に開設され、敷地面積約15,000㎡を有し、平成28年度の総入館者数は約12万人。

##### 三瓶小豆原埋没林

- ・約4千年前に起こった三瓶山の噴火で発生した埋没林を現地で展示、公開する施設
- ・施設の敷地範囲が国の天然記念物に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割となっている。
- ・平成15年5月に開設され、敷地面積約10,000㎡を有し、平成28年度の総入館者数は約2.1万人。



サヒメル館長挨拶



展示物の見学